

# 春日崇志の カメラ風土記

江戸時代から続く  
竹原の町並みを歩く  
(広島県竹原市)

広島県竹原市の中心部に、約350年前の江戸時代の町並みが保存されている。竹原はもともと製塩業で繁栄した町で、のちに酒造業でも知られることとなる。妻入り三連の重厚な建物である竹鶴酒造はニッカウキスキーの創始者・竹鶴政孝氏の生家であり、同氏は日本のウイスキー

の父と呼ばれる。日本の古い町並みは全体的に彩度が低く暗い印象が強いが、竹原には白壁土蔵になまこ壁、白漆喰の家屋に加えて、洋風建築もあり色も形も多彩で町歩きが楽しい。竹原の離島、大久野島には約1000羽の野生のうさぎが生息しており、「うさぎの島」と

して国内外から多くの観光客が訪れる。【アクセス】道内各地から羽田空港経由で広島空港へ。空港から車で約15分。または新幹線新大阪駅から三原駅へ。JR呉線で竹原駅へ。駅から町並みまでは徒歩圏内。大久野島へは忠海港からフェリーで約15分。



- ① ニッカウキスキーの創始者・竹鶴政孝氏の生家。黒漆喰、三重連の妻入りの家屋は重厚で迫力がある
- ② 昭和初期に建てられたレトロモダンな洋風建築。現在は竹原市歴史民俗資料館として見学が可能である
- ③ 夜明け前の町並み。鉛色の千本格子と雨上がりの石畳が美しい
- ④ 木造の母屋と白壁土蔵になまこ壁の蔵の多い町並み。酒造業や飲食店として活用されている

